



- ①負傷者をヘリコプターで地上から救出
- ②負傷した避難住民をリヤカーで搬送
- ③多重事故車両からフロントガラスを割って負傷者を救助
- ④避難住民が協力してのバケツリレーによる消火訓練
- ⑤通信機能の復旧作業をする移動無線車
- ⑥倒壊した家屋内外の搜索活動をする災害救助犬
- ⑦地震による津波発生に伴い各機関による漂流者の探索、救助活動
- ⑧救護所内で応急救護する医療スタッフ
- ⑨避難所で夕食の準備をするボランティア団体
- ⑩訓練を巡視する森田健作千葉県知事(中央)と椎名千収山武市長(右)



「取材を終えて」
「訓練で良かった」カメラを構えながらそう思った。そして、実際に災害が起こった時、各関係機関と、住民の協力が必要不可欠だということを深く実感した。

避難所訓練
被災で住宅を失った住民や避難勧告地域の住民、自主避難の住民約190人は、避難所の蓮沼スポーツプラザ、さんぶの森中央会館へ避難を開始。それぞれの避難所では、午後5時から避難者の受け入れ訓練を開始した。避難所運営訓練では、避難情報・伝達訓練、給食訓練、救護センター運営訓練や災害ボランティアセンター運営訓練などを行い、避難所生活を体験した。

殿下海岸では、海上保安庁、海上自衛隊、ライフセーバーによる行楽客の非難誘導訓練が行われた。